

第33回通常総代会当日の 質疑応答

総代会では、3名から6項目の発言があり、そのうち挙手の発言は1名です。また、答弁に対しての発言が1項目ありました。発言及び回答の概要は以下のとおりです。

1. Wi-Fi環境の整備について

Q コープアプリなどの学習会をしたくても青森地域はWi-Fiが使えない状況です。2023年には弘前・八戸・五所川原にWi-Fiの環境が整ったと思います。組合員活動で利用できるWi-Fiの環境をこの地域でも早く整えてほしいです。

A 今後の組合員活動に必要なもので、どのような活用の仕方がいいのかも含めて引き続き調査、検討していきます。また、Wi-Fiの環境がない地域で、いろいろなオンライン学習会の開催に不便を感じているという声がありましたので、現在無料Wi-Fiのある施設を活用してコープアプリの学習会やオンライン企画を実施している地域もあります。オンライン企画を計画しているWi-Fi環境のない地域は、地域活動担当職員にお声がけください。

2. (株)あおもりコープフーズについて

Q (株)あおもりコープフーズの現在1日あたりの食数と今年度末までの目標の食数を教えてください。

A 24年度の1日あたりの食数は約5,000食です。25年度の予算は約5,700食、1日約700食増やす計画で24年度比114.6%の伸長です。25年度予算の背景として、お弁当では、いわて生協や生協共立社(山形)が昨年途中からお弁当の納品を開始しました。また、病院・介護給食では、現在、秋田県の介護施設に新たに納品が始まり、1ヵ月約13,500食で増えています。コープあおもりの配食事業はやや苦戦していますが、(株)あおもりコープフーズの食数は伸長しています。

3. 地域会計の活動費の見直しについて

Q 普段仕事している方も休日に

会計の作業をしたり大変です。また、現金を扱うためとても緊張感を持って作業しています。特に弘前地域は領収書の発行枚数が500枚をゆうに超えて計上されており、会計の作業が大変ではないかと感じています。何かしら基準を設けて委員会や人数の基準で1ヵ月の会計の活動手当のところを上限をもって考えていただきたいと要望します。

A 委員会の会計について、これまでも負担が大きく、加算してほしいという声はありましたが、地域リーダー会の活動費に加算してもらえないかという声をいただいたのは今回初めてです。現段階では協議していませんが、地域の委員会数や活動件数を一例として、ルールを作ることは容易ではないと考えています。ただし、委員会の会計の負担が大きいという声は他地域からもあり、地域リーダー会の会計についても同様に負担はありと思っています。今後、地域活動協議会などで協議して、負担感や不公平感の少ない活動の仕組みを検討していきます。ぜひ普段感じていたことやアイデアをいただけたらと思います。

4. 地域リーダー・代表・副代表の年齢制限見直しについて

Q 地域の代表・副代表に年齢制限があり、70歳を超えて1期2年のみとあります。その中で社会情勢を見ても70歳以上で元気でやる気があれば何年でも続けられるように考えていただきたいです。他地域も一緒だと思いますが弘前地域は1年たつと70歳の年齢制限で活動が立ち行かなくなる可能性があると聞いています。年齢制限の撤廃を考えていただきたいと思います。

A 年齢制限について、2022年6月から地域活動協議会で協議しており、地域リーダー会や組合員理事の意見を取り入れて、2022年10月の地域活動協議会で現在のルールが確認されています。当時の議論で、70歳の年齢制限があるのは地域の代表と副代表のみなのでその任を退いた以降は委員として活躍していただき、世代交代を進めていくことが背景にあります。世代交代を進めていくために年齢制限は現行のままがいいという声が多く、当時も出されて

いました。年齢制限をなくしてほしいという声の背景には、後任のなり手がいないこと、現状地域が抱えている課題もさまざまあると思います。そういった年齢制限を設けている他生協の実態や組合員活動の仕組みを調査しつつ、地域活動協議会で話し合いを進めていければと考えています。

5. 地域によって未設置である状況と弘前・八戸・五所川原の3地域が試験的にWi-Fi導入された経緯について

Q 弘前・八戸・五所川原の3地域で試験的にWi-Fiを導入しますという風に2年前の書類に書いていたと私は思いましたが、この3地域が選ばれた理由を教えてください。試験導入からもう2年経っていますので、早くこの地域でも使えるように設置してほしいと思います。

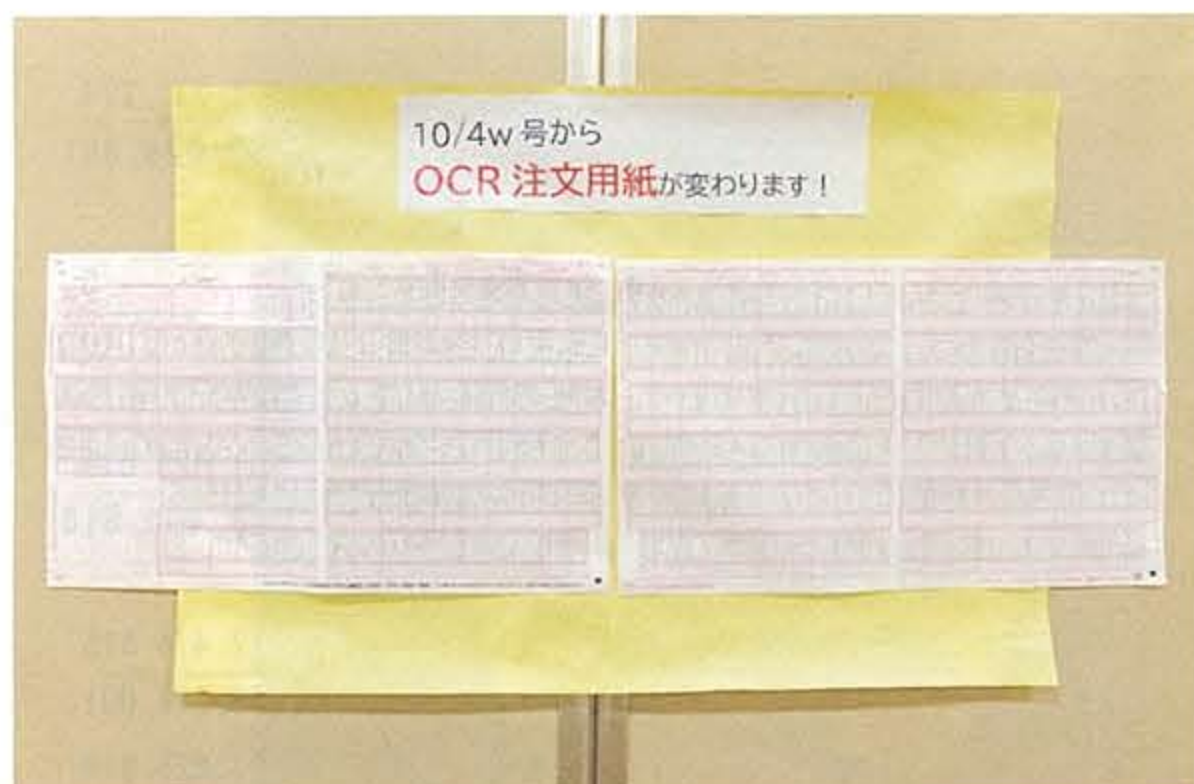
A 弘前・八戸・五所川原の3地域へ試験的にWi-Fiを導入したのについて、弘前地域と八戸地域は活動人数が多く、活動の多い地域であるため試験的に導入することにしました。五所川原地域は、宅配センターや店舗と併設されておらず、オンライン検索など職員に頼ることができないため導入しました。他地域についても早急に検討させていただき、地域活動協議会などでまた報告させていただきます。

6. オンライン企画と各地域のWi-Fi環境の整備について

Q オンラインで商品交流会を開催する際は、地域でタブレットとプロジェクター1台を使用します。講習会という形で、みんなが画面を見ながら学習するにはとても有効だと思いますが、交流会になると、1台のタブレットの前に進み出て話をしないと画面に映らないし、声も入らないという状況です。そのため、タブレットを回したり、自分が移動したりという形を取らないと交流ができません。他のところから話を聞くと、外付けのカメラやマイクがあり、たくさんの人を映し、たくさんさんの声も拾えるので、コープあおもりの全体としてオンラインを進めていく方向であれば、

その機器を買う予算を組み、オンラインがより地域の中で広がるような対策を取っていくべきです。必要な機器は買うという姿勢でお願いします。

A オンライン企画等がコロナ禍以降増え、オンラインの工場見学やそれを通じた交流が進化していますが、オンラインでの組合員活動を進める上で、今地域にあるオンラインの環境がまだ十分ではないということであれば、そこには一定のコストをかけて整備していく必要があると感じています。その辺も実態を含めて確認させていただき、必要であれば機器も周辺環境を整えるということを進めていきたいと思います。



▲コロナ禍以降、久しぶりに2024年度の組合員活動などの展示を行いました。つどいなどで作成した手芸品や工作物などの他、今年度10月4周分から変更となる新しい注文用紙の見本が展示されました。